

## 会津地域の安全・安心をめざして

国土交通省 北陸地方整備局

阿賀川河川事務所長 天野 聡



### 1. はじめに

阿賀野川は、福島県と栃木県の県境に位置する荒海山（標高 1,580m）に源を発し、福島・新潟両県を貫流して新潟市で日本海に注ぐ河川であり、新潟県側を阿賀野川、福島県側を阿賀川と呼び分けています。阿賀川の流域面積は 6,050km<sup>2</sup> で水系全体（7,710km<sup>2</sup>）の約 8 割を占め、また幹川流路延長は 123 km となっています。このうち阿賀川河川事務所では、主に会津盆地を貫流する区間 31.6 km の管理を行っており、さらに支川日橋川 6.6 km 及び支川湯川 2.2 km 等の管理を担当しています。（図-1）

### 2. 本年度の主な取組について

#### ○河道掘削

阿賀川の下流部は山間部となり、川幅が極端に狭い狭窄部が存在するため古くから洪水時にはその上流側でせき上げによる水害が発生していました。このため当該一連区間の河道掘削に着手し、流下能力の向上や内水被害の軽減に努めており、これまでに「泡の巻地区」、「津尻地区」を完成させ、現在は残る「長井地区」において実施しているところです。本事業では、設計段階において施工計画の検討や施工段階において受・発注者間の打ち合わせ協議に、BIM/CIM を活用し工事の生産性向上に取



図-1

り組んでいます。（図-2、3）

#### ○河川の維持管理

阿賀川本川及び支川日橋川において、樹木の繁茂によって河積不足や偏流が発生している箇所の対策として河道内樹木伐採や再繁茂防止対策を行うとともに、老朽化が進んでいる河川管理施設の対策を推進しています。管内の堤防除草作業については、河川協力団体と連携し、「住民参加型河川管理作業」として沿川の住民によって実施しています。

また、河川管理上支障となる河道内土砂の対策として、河道掘削に係

る費用を削減しながら河川砂利の有効活用を計るため、令和3年度から公募型砂利等採取として民間事業者等による掘削を試行しており、令和5年度も引き続き実施しています。

#### ○大川ダムの効果

大川ダムは、治水、流水の正常な機能維持、かんがい、水道用水、工業用水及び発電を目的に建設され、昭和63年から管理を開始しました。

令和元年10月に東日本を襲った台風19号において、阿賀川では観測史上最高となる水位を記録し、大川ダムでは管理開始以降最大となる流入



図-2

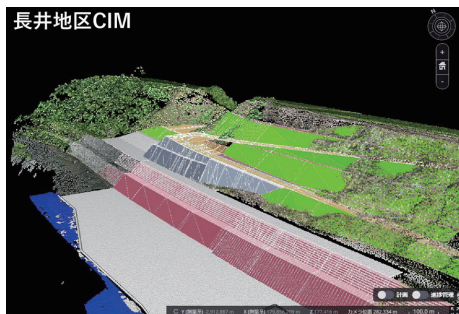


図-3

量を観測しましたが、これまでの下流狭窄部掘削や大川ダムにおける事前放流、洪水調節により、河川水位の更なる上昇を抑える効果がありました。

令和5年は、洪水期となる6月21日以降、まとまった降雨も少なく渇水傾向となり、ダムへの流入量がかんがい等の利水目的に必要な放流量を下回る日が断続的に発生しました。そのため、利水者との渇水情報連絡会を適宜開催し、沿川の土地改良区からの放流要請により、日々の流入量を確認しながらダムからの放流量

を定め、稲作に最低限必要なかんがい用水の確保を可能としました。今年の6月21日から10月10日までの112日間のうち、66日間において、ダムより約1,600万m<sup>3</sup>（東京ドーム約13杯分相当）の補給を行い、現在も補給を行っています。（図-4）

ダム管理の継続にあたり、適切なダム機能効果を発揮するため、堤体の健全度を診断するための総合点検等を踏まえ、主放流設備の修繕やCCTVの更新等各種設備の修繕・更新も実施しています。

### 3. おわりに

近年の気候変動に伴い風水害が激甚化しており、これまで災害の少なかった地域で大雨等が発生し、これまでにない大きな降雨量を局所的に観測するなど、自然災害への備えがますます重要になっています。阿賀川河川事務所においては、関係者が一丸となって流域治水協議会においてとりまとめた流域治水プロジェクトに基づき、福島県や流域市町村等の関係機関と連携を図りながらハード・ソフトの両面で地域防災力の向上に取り組み、会津地域の安全・安心の確保に努めてまいります。

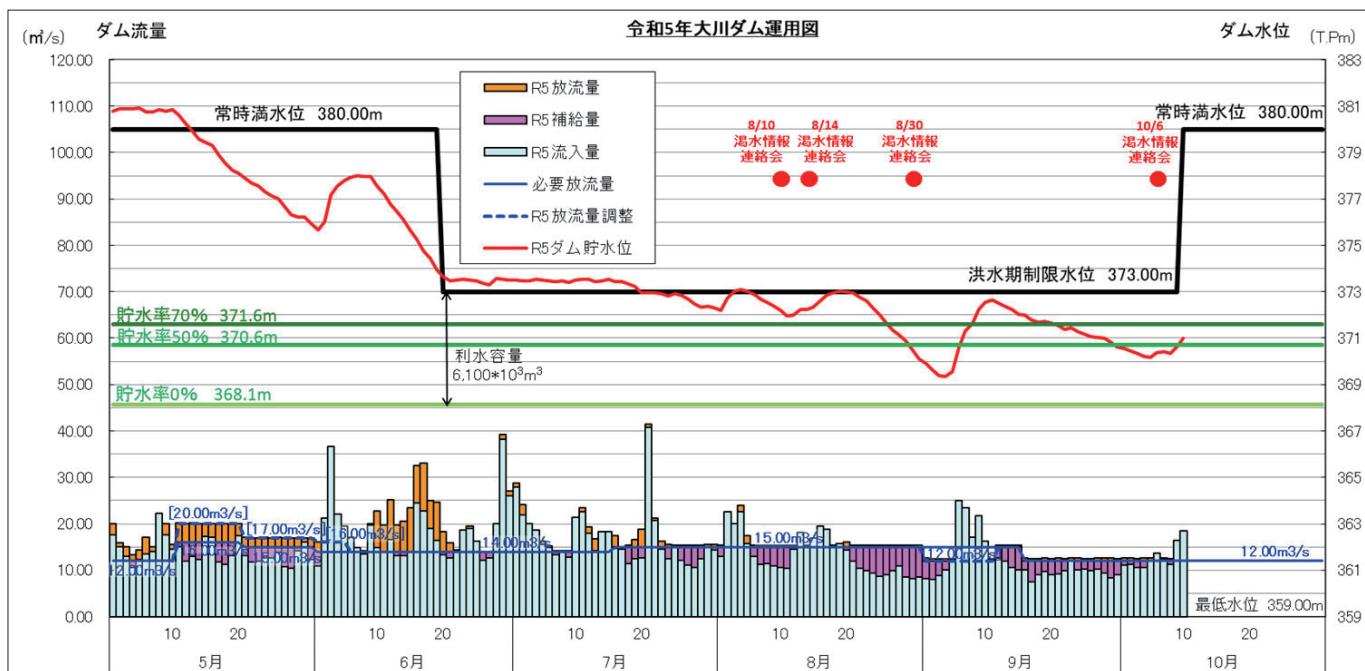


図-4